

宇陀を駆けた人々

のぶかつ

織田信雄 篇1

信長の息子 信雄

今回からは、天下人の織田信長の息子で、宇陀松山藩の初代藩主であった信雄について見ていきたいと思います。信雄は、1558年（弘治4・永禄元）に信長の次男として誕生します。信長が桶狭間の戦いで今川義元を破る2年前のことでした。信長は、前述の戦いで義元を破ると1567年（永禄10）には、美濃国（岐阜の南半分）を手中に治め、美濃の山城である稲葉山城を岐阜城と改め、天下統一事業を推し進めます。信長が次に目を付けたのは伊勢国（三重県の北部・中部）でした。伊勢国北部は、伊勢国南部の大きな勢力であった北畠氏が手中に治めていました。伊勢北部の武士の長野氏や、神戸氏は北畠氏と親戚関係でした。

信長は、三重県の攻撃の足掛かりとして、まず神戸氏や長野氏を攻撃して脅し、和睦し両家へ織田家から養子を出します。こうして伊勢北部は、信長の支配下になります。そして本格的に北畠氏へ攻撃を仕掛けてきます。

信長は、1569年（永禄12）に北畠氏の城の大河内城を3か月間ほど攻めましたが遂には、城を落とせませんでした。信長は、和睦の条件として北畠氏当主の具教ともりの娘雪姫と信雄を婚約させるなどの条件でついに北畠氏と和睦します。そのような経緯で信雄は、北畠氏へ養子に出されることとなります。信雄が13歳の時でした。

信雄は、1575年（天正3）に18歳で北畠当主として家督を相続しました。信長の天下統一事業に北畠氏勢力を率いて各地を転戦します。しかし前北畠当主の具教が北畠家内で権力をもっていたので、これを殺害し北畠家を乗っ取ります。今回は、信雄が北畠家を掌握し、伊賀へ侵攻する所からみていきたいと思います。

